

施設一体型 角鹿中学校区 小中一貫校の 「クラスルーム」 周りについて 考えよう！ 2

平成30年7月17日(火) 18:00~20:00 敦賀市役所
角鹿中学校区小中一貫校の設置に向け、第10回施設整備部会(教職員ワークショップ)が開催されました。今年度から実施設計に移り、先生を中心に、より具体的な議論に入り、前回に引き続き「クラスルーム周り」をテーマに、クラスルームとワークスペース・ワークルームについて議論しました。まず、設計者から、前回の振り返り、現在の計画案、類似施設についての説明があり、その後、小学校低学年、小学校中・高学年、中学校のグループに分かれて、議論を深めました。

- プログラム
- 1 前回の振り返り(5分)
 - 2 現在の計画案(10分)
 - 3 情報提供(10分)
 - 4 グループワーク(70分)
 - 5 発表(15分)
 - 6 まとめ・連絡(10分)



2 現在の計画案:説明と設計者からの問い掛け



3 情報提供:類似施設の事例紹介(笠井教授による)



4 グループワーク:衛立で囲んだ実物大クラスルームを確認

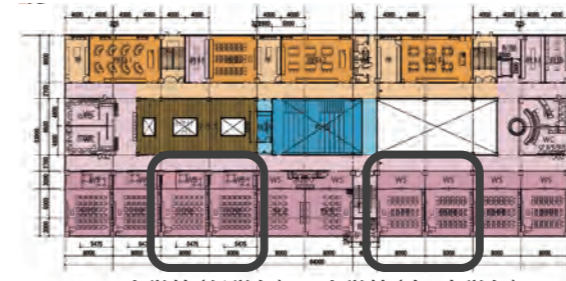


4 グループワーク:クラスルーム周りについて考える



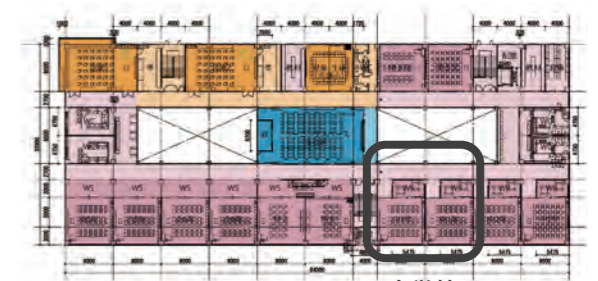
5 発表:各グループで話し合ったことを発表し、全員で共有

現在の計画案の特徴(クラスルーム周り) / 設計者が聞きたいこと



小学校(低学年) 小学校(中・高学年)

平面図(2階)

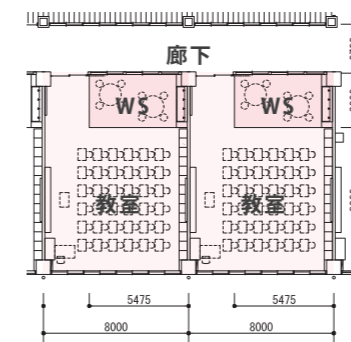


中学校

平面図(3階)

クラスルーム周りの3つの考え方

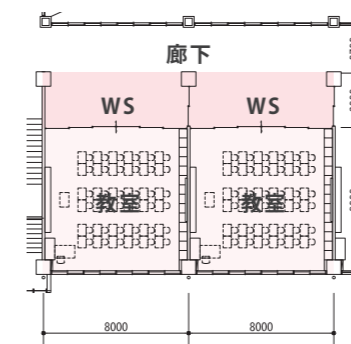
小学校(低学年)



学習空間であり生活空間となる
一日の大半を落ち着いて過ごせる総合教室

- ・教室内にWS(ワークスペース)を内包し、緩やかに領域分け
→段差、家具で仕切るなどの考えもある
- ・WSに水場を確保し、様々な教科に対応
→水場の床の仕上げは水廻り仕様に
- ・教室の間仕切り位置は廊下側
→隣室への音対策、管理のしやすさ

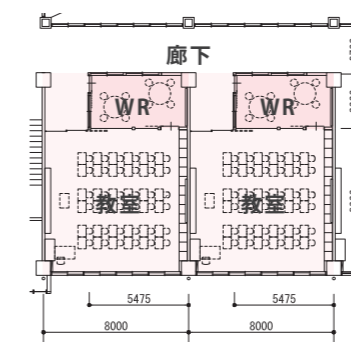
小学校(中・高学年)



学習と生活の拠点となる教室とWS(教室外)を備える
WSは建具を開放して、教室と一体的に利用も可能

- ・教室の外にWSを設置し、全開が可能な建具で教室と繋がる
→閉めるときは、隣室への音対策が必要とき
- ・床の仕上げはフローリング
- ・廊下とWSは緩やかに分かれる
→WSに掲示・展示を行うことにより、情報発信のスペースとなる

中学校(南側)



一斉授業で集中できる独立性の高い設え
グループ学習や個別学習ができるWR(ワークルーム)

- ・廊下と教室をしっかりと分ける
- ・教室と別の壁で仕切ったWRを設置
→学年もしくは学校共有の個室と考える
→廊下からの出入りも可能
→自学できるための教具を設置
→教員の居場所としても利用可能
- ・WRと教室の境はガラスでも壁でも



久保 久志
(東畑建築事務所)

設計者が聞きたいこと

- ・活動(学習/生活)に合わせた
クラスルームとワークスペースやワークルームの使い分け
- ・学年ごとの使い方の違い
- ・新しい学校だからできること/チャレンジしたいこと

このような表を使い、子どもの学年に合わせた活動を整理しました

拡大図面を見ながら、クラスルームとワークスペース・ワークルームについて考えました

グループワーク テーマ 1 「施設一体型小中一貫校の活動(クラスルーム周り)を確認しよう!」

グループワーク テーマ 2 「学習・生活の拠点「クラスルーム周り」について考えよう! 2」

今回は、小学校低学年/小学校中・高学年/中学校のグループに分かれて、ワーク1でソフト(机の配置、水を用いた活動、教具を用いた活動、その他)を確認し、ワーク2でハードについて考えました。

区分	小学校(低学年)	小学校(中・高学年)	中学校	
机の配置	1人(一斉授業)	テスト ※低学年は一斉授業配置は少ない	テスト ※赤崎小は小規模なため常時	アイディアスケッチ(美術) ※美術室がグループ机のため
	2人(ペア)	話し合い(国語、算数、生活科)	授業時の 基本スタイル ※話し合うときは体だけ向き合う	ペアで 英会話 (英語)
	複数(グループ)	音読発表会(国語) 工作授業(図工、生活科)、 給食	課題出題(社会) ⇒話し合ってから結論を導く	発表(理科)作業(家庭科)、給食 ※授業の学習班(3~4人)と給食・掃除等の生活班(5~6人)
	ディベート(ハの字、コの字)		コの字の外 に椅子(問題を解く) コの字の中 で床座(解説を聞く)	英語でディベート (英語) ※中学3年生は行うことがある
	机を後に動かして	床で 工作授業 (図工、生活科)		
	机を前に動かして	縄跳び (業間休み)		
水を用いた活動		インフルエンザ予防	絵画 や 書写 の授業(書道、図工)	絵画 の授業(美術) ※個人作業は教室で行うことも多い
		手洗い・うがい ※低学年は手洗いの使用頻度高い(業間休み、給食時、掃除後、他)	メダカの観察 (理科) ※発育を観察するものは近くに	手洗い・うがい
			手洗い・うがい	
			配膳→給食→歯磨き	
教具を用いた活動	黒板・白板	黒板 と 大型モニター を使う ※色々な教具を使うと、児童の集中力が切れないか心配	黒板 が使いやすい	黒板 を使って授業 白板 には過予定等を記入
	大型モニター	映すもの によって 場所 を変える ※高いと疲れるので黒板と同じ高さ	ICT 用いる 授業のメイン ※モニターとしての利用なら固定、児童が使うなら可動がよい	実験内容 や 現象 等を映像で(理科)、 作品 を映像で(美術)
	電子黒板		あったら 便利 ※大事なものは、常に使える環境であること	生徒の成果物をすぐに全体で共有
	タブレット			全員の提出 データを確認 (国語) 実験結果を共有 (理科) ※生徒に1つか、教科毎にあるとよい
	プロジェクター		※準備が面倒で使っていない 使うなら常設がよい	
	OHC、掛図		OHCは 便利 で 高頻度利用 掛図は モニターに移行 している	
	模造紙		前の授業の 復習 のために 掲示 ※単元が終わるまで掲示したい	
その他		生き物の観察 をする ※児童が捕まえた生き物を一定期間	家で使わない 教科書 を 置いていく (音楽、家庭科)	
		学級文庫 を読む ※低学年が読む本は短いので、何度も図書館に行かないといけない 近くにあると嬉しい	※基本的には教科書は持ち帰る 辞書は置いていく	

区分	小学校(低学年)	小学校(中・高学年)	中学校
ワークスペース ワークルーム (WS・WR)	<ul style="list-style-type: none"> 低学年の児童には、水道もあって充実している 水道の位置は、児童が気にならないように背面側にするのがよい 衛生的(器具に触れない)なので、自動水栓にしてほしい 教員の机は、教室の隅の方に置かれることが多い WSを教員スペース、教員の荷物置き場に利用しては 出入口付近にカウンターを設けて、WSを仕切れないか 開放的になり過ぎて、児童が集中できないかもしれないので、教室とWSの境を可動壁に 	<ul style="list-style-type: none"> グループ発表の練習は、いつでも使えるオープンスペースがよい 英語の自己紹介は机が無い方がやりやすい 配膳机を置いて配膳を行う 学年全体での合唱練習ができる 同学年のWSとWSの間は、開閉できる間仕切がよい 他の学年のWSとは、防音上、壁にするのがよいかも 教室とWSの境に、冷暖房の効率や防音を考えて間仕切がほしい 掃除がしやすいように、床はフローリングがよい (廊下に)コートや体操着、給食当番着、靴がかけらるとよい 教室南側窓下にも収納があるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> 教員が空いている時間に、WRで勉強を教える 生徒への個別指導に利用 班長同士等、生徒が休み時間に打合せで利用する 授業で活用する場面は少ない 学年としてではなく、教科毎に利用できるようにしては 英語、社会のように、特別教室がない教科の専門的な教科スペースにしては 教室の出入口は2つほしい 基本的には個室利用になるが、教室の一部というイメージ 空調があれば使いやすい 普段は開放的で、閉じて利用もできるようにカーテンがほしい 隣のクラスのWRと共用はしたくない 中学3年生が最も個人面談や指導で利用する 教室から少し離れた教材庫と倉庫を中学3年生のWRに WRと教材庫のハイブリットに
教具		<ul style="list-style-type: none"> 教室の南から北まで届くような大きな黒板はいらない 電子黒板を授業で使いたい 	
掲示・展示	<ul style="list-style-type: none"> 背面黒板をやめて、掲示スペースを増やしてほしい 算数(計算)の授業中に、模造紙を貼るスペースがほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 前方は授業に集中できるように、掲示展示をしない方がよい 後方に掲示展示スペースを 	